

安倍首相辞意表明について 会頭コメント

戦後生まれの初の首相として、その若さで改革路線を積極的に推進してくれるだろうと、大いに期待していただけに残念だ。

内閣改造を断行し、所信表明を行った直後でもあり、何故このタイミングなのか、唐突感は否めない。恐らく、予想される政治の空白を避ける意味から政局の流れを大きく変えていくには今しかないと判断されたように思う。

今回の辞任は首相自身の責任もあるが、「政治とカネ」の問題をめぐって、国民の不信感を拭いきれなかった自民党にも問題がある。ただ、これが新たな政党政治への変革となるきっかけになるのではないか。

これ以上の政治の空白、混乱は日本どころか、世界経済にも悪影響を及ぼすことになりかねない。自民党は、早い段階で党を挙げて力強いリーダーシップを発揮する後継者を選び、野党とも十分連携して、今まで進めてきた経済成長路線の軸がぶれることのないよう、税財政改革、地域再生、中小企業振興などに取り組み、産業界からの信頼回復に繋げてもらいたい。

2007年9月12日

京都商工会議所

会頭 立石義雄